

主な行事		
赤沢自然休養林	4月下旬	開園(赤沢森林鉄道運行開始)
小川若宮神社例祭	4月下旬	西小川・島地区を中心とした例祭・上松町無形文化財
駒ヶ岳神社例祭	5月3日	東小川・国選択民俗文化財・県無形文化財
赤沢森林浴(春)	5月下旬	
ほお葉巻き	5月下旬～7月上旬	
大宮神社例祭	7月中旬	寝覚・見帰地区
鹿島香取神社例祭	7月中旬	荻原地区
ひのきの里の夏まつり	7月下旬～8月上旬	花火大会
木曽踊り	8月14日	
諏訪神社例祭・上松祭り	9月上旬	町中心部・上松町無形、有形文化財
赤沢森林浴(秋)	10月上旬	
神明春日神社例祭	10月中旬	立町地区
ひのきの里の秋まつり	10月下旬～11月上旬	全国木馬引き大会
赤沢自然休養林	11月初旬	閉園(赤沢森林鉄道終了)
どんどやき	1月中旬	
氷雪の灯まつり	1月下旬～2月上旬	

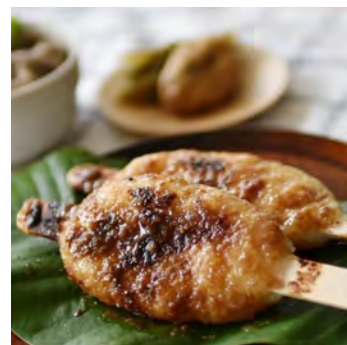
特産品紹介



えごま油・ドレッシング
町内産のえごまを低温圧搾



ほお葉巻
米粉を練って小豆あんを中に入れ
朴の葉で包み蒸し上げます



五平餅
米を炊き、半つぶしして成形し焼く
えごまだれをかけて再度、焼く



からすみ
米粉で作った蒸し菓子



すんき漬け
赤カブの葉を無塩乳酸発酵した漬物



信州味噌
上松町特産品開発センターで手作り



町花：オオヤマレンゲ

*赤沢自然休養林

日本三大美林木曽ひのきの森、森林浴発祥の地でもあり、近年は森林セラピー基地としてヘルスツーリズムでも注目を集めている。木曽の林業の歴史や車の無い時代の地域の足となっていた森林鉄道が復元され園内を走っている。4月下旬～11月上旬



*寢覚の床

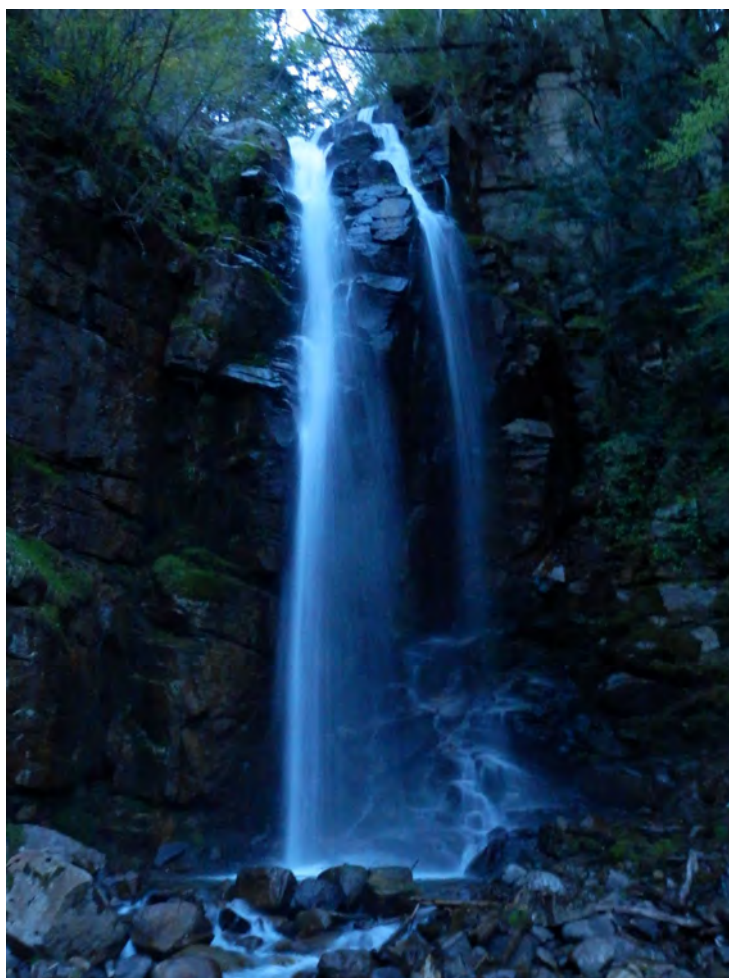
木曽八景の一つ「寢覚の夜雨」花崗岩が木曽川の激流にもまれ浸食され、その風景は地質学分野においても標本となりうるとの評価を受けている。大きな岩が浸食され屏風のようにそそり立つさまはまさに圧巻。おとぎ話「浦島太郎」伝説もあり、隣接の臨川寺には「浦島太郎の釣竿？」の展示も。



*臨川寺

*小野の滝

木曽八景の一つ「小野の瀑布」広重・英泉合作の中山道六十九次にも登場します。



*小野の滝 冬の様子



*木曽の棧

木曽八景の一つ「棧の朝霧」中山道一の難所と言われた場所。現在旧国道下の石積でわずかではありますが街道の面影を残しています。



*中山道

かつては中山道「上松宿」としてさかえた宿場ですが、昭和25年の大火をはじめ街道筋の家屋は当時の面影を残すものが少なく、上町周辺(写真)・寝覚(立場茶屋跡)で見られます。

*木曽古道

中山道が開かれるその昔から木曽谷を貫いていた道。駒ヶ岳神社、東野の阿弥陀堂(写真)などがみられる。





*風越山

木曽八景の一つ「風越の晴嵐」かつては牛馬の放牧地として山頂は青々とした草に覆われていた。



*木曽駒ヶ岳

木曽八景の一つ「駒ヶ岳の夕照」標高2956m。険しい岩肌が切り立つ山容と、雪化粧をした山肌に映える夕焼けは時間とともに色彩が変わり、神々しい異彩を放ちます。

ご神木祭

*御神木祭

「御神木祭」とは、ご神木の伐採に伴って開催されるご奉祝行事です。

国内の神社を代表する伊勢神宮(正式名称は「神宮」)は、内宮と外宮から成り20年に一度、「式年遷宮」を執り行います。この式年遷宮では新たに神殿を建て替えて御神体移します。伊勢神宮の遷宮は様々な行事を要し、これまでに62回、約1300年にわたって連綿と伝えられてきた日本の伝統文化です。



この遷宮に使用される木材のうち、御神体を収めるための器となる材は「御樋代木(みひしろぎ)」といわれ、この御樋代木を採る木材が「御神木」と呼ばれます。御神体に最も近づく御神木の伐採には「御杣始祭(みそまはじめさい)」と呼ばれる特別な祭事が行われます。

この御神木は内宮と外宮の2本を必要とし、それぞれが無節の上質な材であること、清らかな流れに近い清浄な土地にあることなど、数多くの要件を満たさなくてはなりません。また伐採では2本の先端を交差させて倒すため、お互いが届く距離に生えていなくてはなりません。

数々の難関を突破して選ばれた御神木は、三ツ紐切り(みつひもきり)といわれる伝統的な手法で伐倒されます。木の幹に3方から斧をいれ、3箇所ツルを残して伐倒することで、木材を傷めず倒す方向も決めやすいという古来の技術です。



伐採された御神木の断面は、三方から伐採された跡が明確に分かります。また、この切り株は窪みが見られ、杣夫の方々には「御神酒がたまる」と伝えられているそうです。古くからのしきたりに則して、伐採された木から小枝を移し感謝の意を込めて切り株に挿しました。伐採された御神木は先端を整えられ、いよいよ伊勢に向けて旅立ちます。これを「御奉送(ごほうそう)」と呼び、御神木が立ち寄る各地域で神事や例祭が開催されます。

地元奉賛会がお木曳行事に備え御神木を奉曳車に整えます。安置された御神木は氏子がかがり火を焚きながら夜を徹して守ります。



御神木は多くの方々の手によって曳かれ練り歩きます。若連衆が木遣り歌を歌い、奉賛者が「よーい、よーい」と応えます。一般参加者、保育園や小学校の子どもたちも綱を引き20年に一度の思い出を心に刻みます。



